

報告事項イ

第5回鳥取県教育審議会の概要について

平成20年7月25日に開催された第5回鳥取県教育審議会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成20年8月19日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

## 第5回鳥取県教育審議会の概要について

平成20年8月19日  
教育総務課

- 1 日時 平成20年7月25日（金） 午後2時～午後4時30分
- 2 場所 白兎会館2階「飛翔の間東」
- 3 出席者 教育審議会委員（20名）、県教育委員（2名）、教育長、教育次長、次長、関係各課長 他
- 4 概要（議題に対する主な意見等 ●委員、○事務局）

### （1）報告事項：各部会・分科会の開催状況について

- 全国学力調査（以下「調査」という。）の結果は開示という話があるようだが、調査は誰のために、何のために行ったのか。
- 調査は子どもたちの教育のために実施した。調査の結果を今後の教育施策に活用し、広い意味で子どもたちの力をつけるために実施した。県は情報公開条例があり、県の持っている情報は開示が大前提。開示請求があったので、当初は非開示を決めたが県情報公開審議会の審議結果は非開示を取り消すべきとの判断であった。この問題は県教育委員会でも議論中である。
- 国は公表しないという前提で行った。調査の目的は教員の指導力の向上のためであり、調査と業務の違いを明らかにすること。
- 教員の指導力向上は子どもの学力向上のためにある。国は完全に公表しないと行った訳ではない。

### （2）教育立県について

- 間違いなく鳥取県は教育県。ただ外から見るとどうか。高校の進学率や難関大学への進学率などを見ると、外からは教育県とは見えていないのではないかと。全方位型の教育は素晴らしいが、できる子を伸ばす教育が欠けている。平均から下の所はいきとどいているが、伸びる子に目を向けてほしい。このままでは、県外の方が転勤などに伴い鳥取県に子どもを連れて行ったら駄目になると言われてしまう。
- 伸びる子を伸ばしていない。教員の指導力を上げないと駄目。全国学力調査は子どもの学力を上げるため。そのためには教員の指導力を上げることが必要。それぞれの子どもの持っている力を伸ばすことのできる教育をする事。教育の在り方を大切にしてほしい。お金はかけているがそれが活かしているのか。
- わざわざ県外から越境してでも鳥取で学ぼうと思ってもらうには何が必要か。
- 有名と言われるよい大学に行けることを尺度にするのか。新しい時代には新しい尺度が必要。日本の教育を世界最高水準の教育にすることが必要。それには知・徳・体のバランスの取れた教育が必要。良き市民、良き県民を作ることが必要。  
教育立県になるために、現状を分析して課題を明確に、課題について解決策を決定、解決策を実行、実行したものを評価し新たな動きを実施。そういう考え方に立つことが大切。学校評価のPDCAを機能させることが大切。
- 子どもたちの内面に響くものでなければ高い教育とは言えない。求めるものに対してレベルの高いところで応えていけることが魅力となる。技術を求める者にとっては技術。知的に高いところを求める子どもには知的に高いもの。内面に響くようははっきりとしたものを打ち出してほしい。

- 県の方向性と保護者の希望にギャップがあるのではないか。有名大学に行ってほしいと思うかどうか。鳥取県の給与の現実を見ても保護者は授業料の安い国公立に言って欲しいと考えているのではないか。
- 学校、地域、家庭のバランスが大切。心とからだいきいきキャンペーンは本当に大切。就学前の教育に重きを置いてほしい。市町村間でも格差がある。県はその格差を無くする取組をしてほしい。
- 知、徳、体のバランスは大賛成。子どもたちが持っている力を出せない状況が問題。子どもの自信のなさを何とかしたい。どこかで力一杯頑張らせる経験をさせることが大切。
- 多様さを伸ばす教育が欠けている。芸術でもスポーツでも。

### (3) 協議事項：平成19年度教育行政の点検・評価について

- 到達度は数値目標に、成果は県教委の独断の基準や判断によって行っている。この評価が公表されれば「これでよいのか」となる。現状の評価では「何これ」となる。
- 教育委員からも成果はあまいと指摘を受けた。分かりやすい指標の設定とすることで、到達度と成果の4段階評価とした。今回が初めての点検評価であるので、今後よりよいものにしていきたい。
- 到達度◎が成果Bなど整合性がとれていないように感じる。どうしたら成果がAになるのだろうと心配する。整合性がとれない「行に埋まっている中身」をわかるようにしてほしい。例えば、到達度と成果の評価がずれているところに※をつけて、その理由を記載するとよい。
- 評価の項目を整理したほうがよい。全部◎にしようとする学校はパンクしてしまう。数値目標にあげればよいものとそうでないものに整理した方がよい。エキスパート教員がどのようになるかなど。学校が特色を持ってやっていけばよいものまで、100%を求められると学校はパンクしてしまう。
- 内容が重要なのに単に回数等だけに重点が置かれており気になる。
- 到達度と成果の評価がずれているところに※をつけて、その理由を記載するようになりたいと思う。学校側との関係は、この評価は学校対象のものではなく、あくまでも教育行政の評価である。今後、整理していきたい。
- 次年度以降の方針転換のポイント等があると分かりやすくなると思う。
- 来年度以降に改善していきたいと思う。
- 現場の教育は様々な体験をする機会が少ない。社会教育施設を利用し、様々な体験をするということも入れ込んでほしい。
- 性教育は小学校でも結構やっている。これ以上○○委員会が増えると大変。スポーツ関係で、この評価では「ジュニア層の強化、競技力向上等」と書いてあるが、生涯学習分科会では「ジュニア層の過度な強化」には批判的である。
- 校内性教育委員会は校内で共通理解を図る場と考えてもらってよい。学年会等でもよい。

### (4) その他

- 教科の本質を追究する中で力をつけていくことが大切。感動も大切。そのためには、感動や学力のレベルを上げることが大切。
- 公民館を地域の教育の拠点としていくことが地域の教育力の向上につながる。
- 教育論を議論する場が学校にはない。学校で教育論を学ぶ場があってもよい。
- 親が子どもに向き合う時間が少ない。先生にゆとりがほしい。もっと保護者は先生と話がしたい。

鳥取県教育審議会委員出欠表

区分	氏名	職名等	出欠
	梶田 叡一	兵庫教育大学学長	×
	木岡 一明	名城大学大学院主任教授	×
	押谷 由夫	昭和女子大学教授	×
	山下 佐知子	第一生命女子陸上部監督	○
	新 真二	大阪フィルハーモニー交響楽団（コントラバス奏者）	×
学校等教育分科会	重政 好弘	鳥取大学学長補佐	○
	矢部 敏昭	鳥取大学地域学部教授、附属中校長	○
	小枝 達也	鳥取大学地域学部教授	○
	松本 典子	鳥取短期大学幼児教育学科教授	○
	盛本 裕子	鳥取県立鳥取養護学校校長	○
	朝井 正教	倉吉市立河北中学校校長	○
	橋本代里子	県立青谷高等学校教頭	○
	生田 雅彦	米子北斗高等学校校長	○
	森下 妙子	前鳥取県PTA協議会母親委員会委員長	○
	井上 孝喜	元鳥取県高等学校PTA連合会会長	○
	吉田 秀光	三朝町長	○
平木 孝榮	八頭町教育委員	○	
学校運営分科会	山岸 正明	鳥取大学総合メディア基盤センター長	○
	真山 昭子	前琴浦町立浦安小学校校長	○
	西井 通	前鳥取県PTA協議会副会長	○
	竹上 順子	株式会社インタープロス代表取締役	×
生涯学習分科会	油野 利博	鳥取大学地域学部教授	○
	浅川 滋男	鳥取環境大学環境情報学部教授	×
	石浦外喜義	鳥取城北高等学校教諭	×
	山田 節子	児童書を楽しむ会「つくしんぼ」代表	○
	小谷 次雄	倉吉市成徳公民館長	○
	美田耕一郎	鳥取県子ども会育成連絡協議会副会長	○
	水野 聖子	ガールスカウト日本連盟鳥取県支部長	×
	小林 重子	前社団法人鳥取県老人クラブ連合会女性委員会委員	×
萩原 裕子	連合鳥取書記局職員	○	

21名

教育委員会出席者：上山教育委員、若木教育委員、中永教育長、後藤教育次長、  
福本次長 ほか関係職員名20名